



『共生社会』

12月3日から9日は「**障害者週間**」でした。これにかかわって、毎年、内閣府では、「**心の輪を広げる体験作文**」と「**障害者週間ポスター**」を募集して、表彰し、冊子を発行しています。その冊子の中から、ぜひ皆さんに読んでいただきたい受賞作品をご紹介します。

高校生区分 最優秀賞

チャレンジド

鹿児島県立鹿児島工業高校2年 久保 天清

私は生まれつき肘から先が無い、世間的に言う「障害者」だ。

人間の顔をみんな違うのも誰もが知っている当たり前の事だ。産まれたときの体重も身長も髪の毛の本数も、何もかもが違う。自分と全く同じコピーなどこの世には存在しない。

では、なぜ、産まれたときに、手がなかったら、足がなかったら、「障害者」という枠に放り込まれてしまうのだろうか。それは、大多数の人々の当たり前なこと、その人たちにとって普通なことを、社会全体の当たり前にしてしまっているからだと思ふ。私のこの体は、私にとっての普通の体であり、この体と共に生きることが、私にとって当たり前のことである。もちろん自分の腕を見て、「障害だ」なんて思ったことは、生まれてから一度も無い。なのに周りの人々は「可哀想」「不自由そう」というような見方をし、「君は障害があるからこの作業は出来ないね。」などと決めつけられることもあった。私はそれがとても悔しかった。そんなことは無いからだ。**考え方、工夫の仕方次第で可能性は上げられると言うことを知っていた**からだ。だからこそ私は、示したいと思った。自らの生き方で。生まれ持った体で、自分なりに生きることが、当たり前のこと、普通のことであると言うことを。

小学生の時、私は足で字を書いていた。腕で字を書く方法も試したが、早くかける分、丁寧さが損なわれたため早い段階で足を使い始めた。左足の親指と人差し指で鉛筆を挟み、紙がずれぬよう右足で押さえながらという方法だった。硬筆展で入賞したこともあったため、私の字だけが、極端に汚かったということはなかったと思う。**そんな自分のことを理解してくれた先生方や友人の支え**もあり（ながら）、なんとか無事に小学校を卒業することができた。

中学は、特別支援学校ではなく、近所の公立中学に入学した。しかし、中学の板書の量は小学校のものとは比べものにならないくらい多かった、その分、足への負担も多くなっていた。さらに、教室移動の機会も大幅に増えたため、十分間の休み時間で、授業中に書き切れなかった板書を書き写し、靴下を履き直し、次の授業の準備をして教室移動までをやり切るのには正直厳しいなと思った。そこで私は腕で字を書く練習を始めた。スピードは足よりも格段に上がるが、人に見せられるような字ではなかった。綺麗に早く書く。その練習を繰り返した。腕を痛めることもあった。タコもできた。しかし、全く苦痛では無かった。その後の努力は自分にとって必要なものであり、当たり前の事であったからだ。その甲斐あって、最低限綺麗に、早く字を書けるようになったし、休み時間にも余裕が生まれた。周りの同級生たちとも、何ら変わらない学校生活を送れるようになった。

部活動も始めた。小学校の時、クラブ活動で少しだけしたこともあった、ソフトテニス部に入った。ラケットは左脇に挟んで持つことができた。ボールも右腕と顎で挟んで持った。サーブは顔より上にトスを上げることが難しかったので、膝くらいの高さで打つカットサーブにした。みんなと同じ練習もこなした。その甲斐あって公式戦で勝つこともできた。先輩方が引退し、新チームになると、キャプテンを任せて頂いた。チームの代表として貴重な経験をたくさんすることができた。最初はたくさんの人に、「本当に出来るのか」と心配された。しかし、そんな時母は、「あんたはやればできるんだよ」と何度も何度も背中を押してくれた。結局のところ工夫の仕方ですらどうにでもなったのだ。**自分がやりたい事**

があり、それができるように必死に努力する。その大切さを中学校でのたくさんの活動を通して感じる
ことができた。

高校は、鹿児島工業高校に入学した。将来建築系の仕事に就きたいという夢を叶えるため、そして大好きなソフトテニスの強豪校であったからだ。部活動の練習の質は格段上も上がり、授業での実習も、専門系の高校ということもあり、中学校の時とは比べものにならないほど繊細な作業が増えた。正直まだまだ難しいこともたくさんある。上手くキーボードを扱えなかったり、木材を腕で押さえながら鋸を挽けなかったり。課題は山積みだ。**でも、夢を叶えるために必死になって努力するのは誰にとっても当たり前前。**手がなからなんだ。挑戦すれば必ず結果がついてくるのだ。そんな私の背中を押してくれる人がいる。そんな私を支えてくれる人がいる。そんな私を見て、「自分も頑張ろう」と思ってくれる人もいる。

私はこれからも示していきたい。「障害者」というレッテルを貼られた人間でも、生まれ持った体で、自分なりに生きれば、努力を惜しまず挑戦し続ければ、夢を叶える事ができるということ。

お読みいただいていたでしょうか？ 私は、久保くんの力強い決意を感じると共に、障害とは何かを問い直さなくてはならないと感じました。

■ I組：宿泊学習／12月2日(木)から3日(金)

I組は、高尾の森わくわくビレッジに宿泊してまいりました。宿泊施設の中でオリエンテーリングを実施したり、翌日にはトリックアート美術館を見学してきました。



■ 2年生：キャリアチャレンジデイ／12月8日(水)

地域での職場体験の実施ができない(受入数が不足のため)関係で、6社の企業と3校(大阪府柏原市立柏原中学校、北海道札幌市立真駒内中学校、中野区立第二中学校)をオンラインで結んで、

①社会や社会における多様な職業・職種の役割とその重要性を理解する ②職業における必要な能力には、どのようなものがあるかを理解する ③インタビュースキルの向上を通してコミュニケーション能力の育成を図る ④多様な大人の職業や生き方に関する価値観を参考に自分の価値観形成の参考となる情報を収集するを目的として、職業人としての講話と生徒からの質問を行い、交流しました。

<ご協力いただいた企業と職種等>

- ① 阪急電鉄株式会社(不動産管理業、都市開発業) 建築士
- ② 佐川グローバルロジスティクス株式会社
(物流業・倉庫業現場管理) 現場管理
- ③ ネットワンシステムズ株式会社(情報通信業) 技術職
- ④ 日本郵船株式会社(物流業) 外航船員
- ⑤ 合同衛生株式会社(産業廃棄物処分量) 広報
- ⑥ 川崎重工業株式会社(製造業) CSR



■ 弥生地区委員会環境標語入選

- 1年C組 古木 涼風くん 「テレビ消し 家族団らん エコご飯」
1年C組 南 元希くん 「知っておこう 災害あったら 逃げる場所」
1年B組 辰巳 嶺羽くん 「携帯は 使用しだいで 善と悪」
2年B組 日野 翔太くん 「やれば出来る よりそう気持ちで いじめゼロ」

■ 学校教育課による学校給食調理作業点検／12月8日(水)

ご心配をおかけしてしまった「給食への異物混入」を踏まえて、作業点検を行っていただきました。作業工程や衛生管理について問題なく、適切に行われているとの総評をいただきました。

※ 保護者の皆様には、三者面談及び保護者会にご協力いただき、感謝申し上げます。